

防犯カメラと見守りを推進

株式会社 ガードアイ
NPO法人 神奈川県防犯設備士協会 会員
防犯設備士 第04-10089号

藤沢 雅憲



防犯設備士資格取得が基本

防犯設備士資格取得して今までカメラから防犯という目線に大きく変わりました。特に、設置工事が不要で、室内におけるカメラの開発の発想は其れまでではありませんでした。ところが母親を亡くしてからもう4年になります。10年以上一人暮らしの末、徘徊しその後特別養護老人ホーム入所、肺炎でなくなりました。85歳でした。

今後母親のように高齢者が増え、一人暮らしもあたり前になるのではないかと、ということをも身をもって真剣に考えさせられました。それまでは、室内に設置する目的で、設置工事無し、設定無し、全国展開できるカメラの開発販売に力を入れておりました。これがまさに室内カメラのクイックマンという名称で、神奈川県防犯設備士協会の優良防犯機器推奨品第1号に認定されました。



クイックマン

しかし、母親の死をきっかけに私の心の中では防犯カメラ → 防犯カメラ、見守り機器に次第に軸足が移り、見守り機器の市場へも参入現在に至っています。

見守リンク

ここでいう機器とはコンピューターも含まれたネットワークカメラのことです。防犯カメラと見守り

では大きく次の点で異なっていますが基本的には同じです。防犯カメラは、人が移動した際の映像を記録送信するのに対し、見守りは反対で人が移動する際は信号を送信せず、ある一定時間以上経過した後に、見守り信号送信いわゆる生活反応が無い、という知らせを送ります。

見守りを実現するためには人の移動検知を何らかの形で行わなければなりません。ここに赤外センサーを付け、さらに汎用のWi-Fiをセットにし、見守りと人間との連携という意味で「見守リンク」という名称でレンタルし始めました。



見守リンク

集合住宅に

防犯カメラ時代に培った、設置工事無し、設定無し、全国展開出来る商品の思想は、見守り機器にも引き継がれました。この考え方が、賃貸系の住宅に受け入れられる好適な製品でした。全国展開出来、建物にキズをつけないからです。

しかし高齢者が増加し、孤独死といったことが次第にクローズアップしてきたのです。

賃貸住宅のドアの内側は賃貸者専有部分で有り、オーナーとて無断で入るわけにはいきません。つまり、ドアの内側はある意味閉ざされた領域であり、逆にそのことが高齢者の問題を一層深刻にさせています。

そこで、部屋の中に住んで居る高齢者の生活反応を12時間おきに検知する「見守リンク」であれば何処でも使うことができる理由がここにあります。



集合住宅



モニター中の見守リンク

見守りと生活サポートは両輪

見守りはそもそも人が声を掛け合う構造の中では必要有りませんでした。一般の集合住宅では、隣室との干渉が一切無いような構造であるため、何らかの形での見守りが必要です。これは機械だけでは不十分です。ここに、高齢者が必要とする生活サポート機能を取り入れ、部屋に訪れる人々を増やし、声を掛け合う仕組みのシステムが必要なのです。

高齢者になると、大きい物や重い物を継続して持ち続けることは苦手です。これらを支援していく生活サポート体制が今後必要になってくるはずです。また、独居になると話しをすることが極端に減るためこのような面からも生活サポートシステムが必要なのです。

防犯と見守りで地域に貢献

今後、65歳以上の高齢者が人口の30%にさらには独居の急増、一方国の財政は逼迫しており、全て財政で賄うのは不可能です。分かっていることは、このような社会背景の中、多くの人がこのような高齢者に何らかの形で関わり支え合いをしなければならないことですが、その仕組みが社会の中にありません。今後、時間をかけて思考錯誤を経ながら、これらの仕組みをそれぞれの地域で見つけ出して行くことを私自身も実践して参りたいと考えております。